

図書館だより 第26号



* 「八尾図書館ほんの森」での小学2年生対象の学級招待の様子です。

本館や他の地域館、分館でも5月下旬から7月上旬にかけて、学級招待を実施しました。

目次

特集 全国中核市・市立図書館の活動指標.....	2
先進図書館見学記 川口市立中央図書館.....	4
いちおしライブラリー 第14回 「江戸を知る！」.....	5
山田孝雄文庫の資料 24 「塵劫記(じんこうき)」.....	7
レファレンスあれこれ.....	8

特集「全国中核市・市立図書館の活動指標」

平成19年度



1 登録率

(貸出登録者 ÷ 市の人口 × 100)

中核市の平均は34.7%。富山市は、35.4%。
中核市34館中、15位となっています。
最高は豊田市の53.8%。

2 市民1人当たりの貸出冊数

(個人貸出冊数 ÷ 市の人口)

中核市の平均は4.0冊。
富山市は、4.3冊で中核市34館中、11位と
なっています。
最高は豊田市の8.7冊。

3 貸出密度

(個人貸出冊数 ÷ 登録者数)

中核市の平均は13.6冊。
富山市は、12.1冊で中核市34館中、13位。
最高は岡山市44.4冊となっています。
この指標は、年間に登録者(利用者)1人
当たり何冊貸し出されたかを示す、実質
的な利用状況を測るものです。登録者が少
ない場合や、1人当たりの貸出上限冊数が
大きい場合は、この数値も高くなります。
(例：高知市)

4 蔵書回転率

(個人貸出冊数 ÷ 蔵書数)

中核市の平均は2.1回。
富山市は、1.8回で中核市34館中、9位。
最高は福山市3.3回となっています。
この指標は、1冊の蔵書が平均して、何回
貸し出されたかを示すものです。新刊図書
の購入冊数や開架図書の冊数に対し、書庫
蔵書の割合によっても大きく左右されます。

5 市民1人当たりの蔵書冊数

(蔵書数 ÷ 市の人口)

中核市の平均は1.9冊。
富山市は2.3冊で中核市34館中、9位とな
っています。
最高は高槻市3.4冊。
この指標は、地域社会における図書館の力
を示しています。また、図書保障率とも呼
ばれていて、蔵書の魅力を如何に維持して
ゆくかが鍵となります。

6 市民1人当たりの図書購入費

(図書購入費 ÷ 市の人口)

中核市の平均は133.5円。
富山市は178.5円で中核市34館中、4位。
最高は豊田市360.0円。また、金沢市165.1
円、岐阜市79.3円、長野市158.3円となっ
ています。

7 購入図書の平均単価

(図書購入費 ÷ 図書購入冊数)

中核市の平均は1,449円。
富山市は1,797円で中核市34館中、4位。
最高は横須賀市の2,773円。

(注)

1. 基礎数値は、『日本の図書館2006』
(日本図書館協会刊)平成18年4月1日現在
集計による。この数値をもとに指標化を行
いました。なお、比較表の中で指標化がで
きない箇所に 印を付けました。
2. 人口密度の数値は、小数点以下を四捨五入
しました。

中核市・市立図書館の活動指標比較表 **平成19年6月調査**
 現在中核市は35都市あります。しかし長崎市は、現在、市立図書館を建設中です。

No	中核市名	貸出上限冊数 (1人当たり)	登録率	人口密度	貸出冊数(市民1 人当たり)	貸出密度	蔵書回転 率	蔵書冊数(市民1 人当たり)	図書購入費(市民1 人当たり)	購入図書の平均 単価
1	富山市	10	35.4	337	4.3	12.1	1.8	2.3	178.5	1,797
2	旭川市	10	52.2	480	5.5	10.5	2.1	2.6	96.2	
3	函館市	10	15.6	438	3.4	21.7	1.9	1.7	70.0	
4	青森市	8	28.1	382	3.6	12.8	1.8	2.0	58.9	
5	秋田市	5		365	2.8		1.6	1.7	93.8	1,787
6	いわき市	15		292	3.1		2.3	1.3	131.4	1,572
7	郡山市	5	40.6	441	4.2	10.4	1.8	2.4	152.0	
8	宇都宮市	15	41.6	1,080	6.9	16.5	2.9	2.3	206.3	
9	川越市	5	44.4	3,005	4.3	9.7	2.0	2.1		
10	船橋市	10	30.0	6,586	3.2	10.6	1.7	1.9	151.0	1,756
11	横須賀市	10	37.8	1,980	4.7	12.4	2.5	1.9	110.5	1,608
12	相模原市	6	45.8	4,301	2.9	6.2	1.6	1.7	161.4	2,773
13	長野市	10	16.3	513	3.8	23.4	1.8	2.1	158.3	2,747
14	金沢市	10	45.3	941	4.4	9.7	1.9	2.3	165.1	1,955
15	豊橋市	5	50.0	1,377	3.8	7.7	1.5	2.5	166.7	1,754
16	岡崎市	10	35.2	914	4.0	11.5	2.5	1.6	101.0	
17	豊田市	15	53.8	429	8.7	16.3	2.6	3.3	360.0	1,347
18	岐阜市	10	35.6	2,041	3.2	9.0	2.6	1.2	79.3	1,707
19	東大阪市	8	28.3	8,025	3.3	11.7	2.5	1.3	85.6	
20	高槻市	10		3,352	6.6		2.0	3.4	321.7	1,797
21	奈良市	5	13.4	1,340	2.1	15.6	1.3	1.5	92.5	1,559
22	和歌山市	5	33.9	1,841	1.8	5.4	1.8	1.0	72.4	1,622
23	姫路市	6	22.0	998	4.1	18.8	1.9	2.2	131.3	
24	岡山市	無制限	13.3	830	5.9	44.4	2.9	2.1	146.3	1,328
25	倉敷市	20	51.1	1,323	5.3	10.4	2.2	2.5	151.4	1,301
26	福山市	10	31.6	892	5.4	17.1	3.3	1.7	141.3	1,384
27	下関市	10	29.1	408	3.6	12.2	2.0	1.8	147.3	1,670
28	高松市	15	49.7	1,122	4.0	8.1	2.3	1.8	118.2	1,476
29	高知市	10	10.9	1,245	4.5	41.0	1.9	2.4	119.8	
30	松山市	5	49.9	1,193	3.6	7.3	2.6	1.4	98.9	
31	大分市	5	30.4	920	1.6	5.2	1.7	0.9	73.8	1,611
32	熊本市	6	28.5	2,467	2.9	10.0	2.2	1.3	121.6	1,439
33	宮崎市	5	33.6	617	2.3	6.8	2.0	1.2	68.3	
34	鹿児島市	5	43.1	1,093	2.5	5.8	1.9	1.3	76.5	
35	長崎市	建設中								
平均値			34.7	1,575	4.0	13.6	2.1	1.9	133.5	1,714

1. 図書館の概要

川口市は、埼玉県の南端に位置する、人口 50 万人の都市です。荒川を隔てて東京都と隣接し、市の大部分が都心から 10～20km 圏内に含まれます。

JR 川口駅東口のすぐそばに建設された、駅前再開発ビル「キュポ・ラ」(愛称)は、市役所市民課などの公共施設とショッピングセンター、飲食店などの商業施設との複合施設です。このビルの 5 階、6 階に平成 18 年 7 月、川口市立中央図書館がオープンしました。7 階には、NPO 法人委託の「メディアセブン」という映像・情報センターがあります。

この「キュポ・ラ」には、公共施設部門への専用出入り口があり、それは JR 川口駅の改札口から続く歩道橋で直接繋がっています。このため、公共交通機関を利用する市民が立ち寄りやすく、平日の日中でも入館者の数が多いそうです。

延床面積	6,940 m ²
蔵書冊数	218,000 冊
視聴覚資料	9,000 点
開館時間	月～金 10:00-21:00
	土・日・祝 9:00-18:00



<図書館全景>

2. 図書館の特徴

(1) 自動化書庫と開架スペース

駅前の再開発ビルという立地から、中央館でありながら、拡張性がなく、普通の書架では収蔵能力は小さなものになります。そこで限られた床面積を有

効に活用するため、約 30 万冊が収容できる自動化書庫が導入されています。自動化書庫はいわば本の立体駐車場ともいえるもので、請求のあった本が入っているコンテナが、機械操作によって 2 分以内に出てくるようになっています。ただし、自動化書庫は分類順にコンテナに納めるものではなく、省スペースを目的とするもので、どのコンテナにどの本があるかは機械が管理します。従って、書名等がはっきりしない本をブラウジングすることは出来ないという欠点があります。この欠点を補う意味で電動スライド式開架書庫を設け、新聞縮刷版などを閲覧できるようにしています。

また、通常の開架書架には、専門書も配架され、娯楽的な読書だけでなく、調査・研究にも使える蔵書構成を行っています。



<総合案内>

(2) 眺めの良い 新聞・ポピュラー雑誌コーナー

ビルの正面側の壁はガラス張りになっていて、川口駅周辺が一望できます。新聞・ポピュラー雑誌コーナーがあるこの場所は、5～7 階までの 3 階分が吹き抜けになっています。北向きであるため、直射日光が差し込まず、柔らかい光であふれる窓辺の閲覧席は、館内で 1 番の人気スポットとなっているそうです。

(3) 自動貸出機

図書および視聴覚資料には、全て IC タグが貼付されています。館内には、IC タグを読み取る 5 台の自動貸出機が設置されており、貸出をする 7 割近くのかたが利用されるということでした。

また、出入口には BDS (ブックディテクションシステム) を導入して、本の持ち出しを防ぎ、管理を行っています。

(4) ティーンズコーナー

「子どもの本コーナー」と「一般読書室」の間には、ちょっとした仕切りに囲われた「ティーンズコーナー」があります。中高生世代を中心とした、十代の人におすすめの本をそろえており、訪問した2月には、新生活に関する読書案内も配布されていました。

(5) 点字・音声情報コーナー

5階フロアには、点字図書、録音図書を並べたコーナーがあります。市民有志による“音声パソコンボランティア”の活動も、図書館と協働で行われています。音訳の部屋(対面朗読室)も二部屋あり、視覚に障害を持つ方に利用されています。

3. 図書館建設までの歩み

昭和60年に「まちづくり勉強会」が発足し、組合施行による第一種市街地再開発事業が進められました。川口市は、地権者の一員として事業に参画し、公共施設として使用できる一画を取得しました。

平成11年度の末には、市民の要望が高かった市立図書館中央館の建設検討委員会が設置され、基本計画を立てていく中で「3C」の理念、すなわち利便性 Convenient、快適性 Comfortable、協働性 Collaborative を掲げました。それまで、川口市立図書館には、中央館がなく、同規模の5つの地域館で図書館ネットワークを形作っていました。

新中央館のプロジェクトチームは、市内の各団体(ボランティア、障害者団体など)へ直接赴いてヒアリングを行い、図書館のホームページにも意見箱が設けられました。その結果、バリアフリーや小さな子ども連れの利用者に配慮した施設造りが実現しました。

(本館青少年図書室 清川)

いちおしライブラリー 第14回 「江戸を知る！」



皆さんは時代小説というと何を思い浮かべますか。最近では、宮部みゆきや京極夏彦など人気作家の時代小説や、畠中恵の「しゃばけ」シリーズのようにライトな感覚で読みやすいものも出版され、若い人の間でもよく読まれるようになっていきます。

時代小説の背景となっている江戸時代を紹介した本が種々ある中で、今回は楽しく江戸を知ることができる本を紹介します。

江戸を巡ろう



『江戸時代小説はわかり 江戸の暮らしがよく分かる』
(市川 寛明/監修 人文社)

時代小説の中に地名が出てきた時、それがどのあたりか頭の中に思い描きながら読むとその作品の世界観が一気に広がります。この本には江戸切絵図と現代の地図が載っていて、私たちが知っている東京の場所と江戸の町を照らしあわせることができます。

赤穂浪士が討ち入りした吉良上野介の屋敷は現在の両国にありました。切絵図では当時の吉良邸の周りの様子を知ることができます。その横に現在の東京の両国周辺の簡略な地図があり、どのあたりにあったのかわかります。

この本には江戸時代の基礎知識も多数載っています。例えば、江戸時代の貨幣は金・銀・銅が使われていましたが、一両の小判(金貨)一枚が一文銭(寛永通宝、銅貨)約4000~6500枚になるそうです。当時の様子がよくわかる浮世絵版画も美しいカラー図版で載っており、読み物としても興味深く読めて、目で見ても楽しめる一冊です。

江戸を知ろう



『大江戸えねるぎ事情』
(石川 英輔 / 著 講談社)

この本はエネルギー消費量という観点から江戸時代と現代を比較し論じています。

江戸時代の照明は行灯でした。菜種油や魚油を使い、その明るさは実に暗いもので、著者はサラダ油で試したら60ワット電球の50分の1か100分の1程度だったそうです。蝋燭は貴重品で、どちらも再生産できるもので作られ生態系に影響を及ぼしませんでした。とはいえ、実際には早寝早起きし、夜も月明かりを利用するという合理性が庶民にはありました。

わずかなエネルギーを効率よく使って維持し、貧乏でも心豊かに暮らしていた江戸の庶民の日常を知ることが、現代を検証することにつながります。



『うつくしく、やさしく、おろかなり - 私の惚れた「江戸」』
杉浦 日向子 / 著 筑摩書房)

著者は、2005年に46歳の若さで亡くなりましたが、江戸に対する愛情溢れた多くの作品を残しました。この作品は、生前のエッセイや談話を集めた最後のエッセイ集です。

江戸の女性は、武士階級や上流の町民の奥様以外は実に自由奔放、力強く生きていたそうです。江戸っ子は男も女も働き、亭主はひもじい思いをさせない程度に家族を食べさせていれば多少羽目はずしても許されましたが、はずしすぎて食べさせることができなくなったとたん、見切りをつけた“カカア”に“身下り半”を書かされたとか。

歯切れのよいユーモア溢れる文章で、江戸の暮らしを身近なものに感じさせてくれます。

江戸の技術・文化



『見て楽しむ江戸のテクノロジー』
(鈴木 一義 / 監修 数研出版)

まず、繊細かつ精密なからくり人形や万年時計をはじめ、和算が測量技術へと繋がり、天文学が当時すでに研究されていたことに驚かされました。その中でも美や遊び心を取り入れ、ゆとりも感じさせます。もちろん、エレキテルの平賀源内を代表とする江戸テクノロジーの達人たちも紹介しています。

優れたものや有益なものを認め、自分たちのものにしていくことが得意な日本人の資質を、驚きとともに紹介し、その技術力の高さを再認識させられる一冊です。



『桶屋一代江戸を復元する』
(三浦 宏 / 著 筑摩書房)

浅草の檜細工職人でもある三浦さんが、職人としての経験と時代考証に基づいて、江戸時代の家屋や生活道具を十分の一に縮尺したサイズで、内部まで細かく再現した作品を作りました。その作品の精巧さに目を奪われ、見入ってしまいます。また、この本は聞き書きという形になっていて、三浦さんのいかにも職人氣質といった口調で生き生きと文章が綴られています。

江戸時代は職人文化も発達しその技術が磨かれましたが、その技や心意気が現代にも継承されていることが実感できる本です。

約260年、太平の世が続いた江戸期には、今の社会にも通じる仕組みやしきたりが形成されました。

また、100万もの人々が暮らす大都市・江戸では、様々な文化が花開き趣味や食文化が発達し、粋でお洒落で人情にあつい江戸っ子が闊歩していました。

今よりもゆるやかに時が流れ、堅実で質素ながらも充実した生活を送っていた江戸時代に、本を通じてタイムトリップしてみませんか。(堀川南分館 尾屋)



(写真1 塵劫記 跋の部分)



(写真2 塵劫記 口絵)

塵劫記 存下巻 吉田光由著 寛永8年(1631)刊 口絵1、目1、本文27丁 26.0×18.6cm 外題なし
 目録題:「塵劫記」 多色刷り 跋:「此新編塵劫記吉田光由開板鏤 / 梓以壽其傳自今以後行于世 / 為算法指南者如合符節後生 / 勉旃勿輕忽 / 于時寛永第四曆龍集疆梧 / 單闕仲穉好日辰西嶺舜岳 / 野釋玄光以跋」 自跋:「算数の代におけるや誠に爰かたくすてかたきは / 此道なりしかれ共代々此道おとろへて世に名 / あるものすくなしかあるに我まれに或師に / つきて汝思の書をうけて是を服飾とし領袖 / として其一二を爰たりその師にきける所の / ものかきあつめて十八巻となしてその一二三を / 上中下としてわれにおろかなる人の初門として / つたへり〔以下略〕」 識語:「寛永十三年六月日 さか 吉田七兵衛光由(花押)」

『塵劫記』は江戸時代を通じて最も有名な和算書であり、ベストセラーであり、かつロングセラーでもあった。寛永版だけでも寛永4年、寛永8年、寛永9年、寛永11年、寛永13年、寛永18年、寛永20年などが知られている。『塵劫記』は商人をはじめ多くの人々から歓迎され、著作権のない時代であったから、いわゆる海賊版もかなり出たらしく、著者の吉田光由(よしみつよし)は海賊版が流布するのを嫌い、たびたび、4巻本、5巻本、3巻本などに編集し直したり、内容を改訂したりしている。

山田孝雄文庫には寛永8年版と思われるものの下巻だけを所蔵している。寛永8年版は、日本最初の多色刷り本といわれており、山田孝雄文庫にある下巻では、口絵「まゝ子立」と「目付字」の絵が多色刷りである。寛永8年といえば江戸時代初期のことで、多色刷りの技術は未熟であつたらしく、絵の中の黒い縁取りと塗りつぶしの色とがずれている。色刷りは多額の費用がかかることから、吉田光由は海賊版を防ぐ意図を持って多色刷りにしたといわれる。しかし、和算書は色刷りでなくても十分用を果たすので相変わらず海賊版が横行したという。

目次には「塵劫記下巻之目録 吉田光由」とあり、「第三十三 はしの入目を町中へわりかける事」から「第四十八 開立法の事」までを収録している。巻末の跋に「寛永第四曆龍集」の年紀があり、そのあとに著者自跋が印刷され、その末尾に「寛永十三年六月日 さか 吉田七兵衛光由」の署名と花押が毛筆で記され、印が2つ押してある。吉田光由は京都嵯峨の名家角倉家(本姓吉田)の生まれである。「さか」は吉田光由の出身地「嵯峨」のことであろう。この署名を跋の一部とみれば寛永13年の刊か。(本館 亀沢)

寄贈

大沢野図書館へ、地元在住の安井紀一氏から『完本池波正太郎大成』(全31巻)と『藤沢周平全集』(全26巻)(約33万円相当)を寄贈していただきました。未永く活用させていただきます。





レファレンスあれこれ

Q. 華厳の滝に投身自殺した藤村操が書き残した有名な文章の全文を見たい

A. 明治後期、一高生藤村操が、日光華厳の滝で投身自殺したときに、木の幹に墨でしるした文のことである。

まず、藤村操について、『日本近現代人名辞典』（吉川弘文館 2001）『20世紀日本人名事典』（日外アソシエーツ 2004）『日本人名大辞典』（講談社 2001）などで確認すると、次のことがわかった。

明治36年5月22日、一高1年在学中の藤村操が日光華厳の滝上の檜の樹幹に「万有の真相は唯一言にして悉す、曰く「不可解」、われこの恨を懐いて煩悶終に死を決するに至る」という「巖頭之感」を書き残して投身自殺した。その死は人生問題に苦悩した哲学的な死として、同時代の青年に大きな衝撃を与え、「巖頭之感」は青年の朗唱するところとなり、あと追い自殺も続出したとある。また、現場に駆けつけた叔父であり中国史学者那珂通世が『万朝報』に悲痛な弔文を寄せたのにつづき、黒岩淡香は「時代に殉じたる者」と演説したとあるが、いずれの事典にも「巖頭之感」の1部分のみの記述しかなかった。

続いて手にとった『明治・大正・昭和事件犯罪大事典』（東京法経学院出版 1986）には、自殺にいたるまでの事件当日の操の行動と、「巖頭之感」の全文が載っている。

また、藤村操について書かれたものがないか検索してみると、『検証藤村操』平岩昭三著（不二出版 2003）を所蔵していることがわかった。著者が15年かけて綴った操関係の諸論文を集めたもので、巻末に文献・資料目録も収録されている。「藤村操華厳の滝に投身」の章には、全文とともに「万朝報」に掲載された「檜の木周辺のスケッチ」や「東洋画報」に掲載された「巖頭之感と藤村操」の写真が紹介されていた。藤村操研究にとって貴重な1冊である。



Q. 「少年老い易く学成り難し」という言葉の続きを知りたい

A. 『故事成語名言大辞典』（大修館書店 1988）には、巻末に見出し語・類句・関連語から引くことのできる総合索引がある。「少年老い易く学成り難し」の項に、南宋の朱熹（朱子は敬称）が自己の体験に基づいて感ずるところをうたった詩「偶成」の詩句とあるが、「一寸の光陰軽んず可からず」までしか載っていない。

次に見た漢詩の辞典『漢詩漢文名言辞典』（東京書籍 1985）にも、朱熹の別の漢詩の解説の中にこの文があるが、全文は載っていない。同じく『漢詩の辞典』（大修館書店 1999）には、下記にあげた全文が紹介されていた。偶然に作られた詩を「偶成」といい、有名なものがこの朱熹の詩であるという。日本でよく知られているこの詩は、最近の研究によれば、朱熹の真作ではなく、日本の禅僧の作らしいともある。

少年老い易く 学成り難し
一寸の光陰 軽んず可からず
未だ覚めず 池塘春草の夢
階前の梧葉 巳で秋声

（本館参考図書室 北山）



平成19年7月26日富山市立図書館 編集 発行
富山市丸の内1丁目4-50 TEL076-432-7272
HPアドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>
E-mail lib-02library.toyama.toyama.jp